

本県関係の答申物件概要

【重要文化財（建造物）追加指定】

○中世から近世に発展を遂げた荘厳な伽藍で福井藩大工の特徴も示す
（近世以前／寺院）

名 称 たきだんじ 瀧谷寺 5棟
ほんどう かのんどう ほうじょう くり かいざんどう さんもん
本堂・観音堂・方丈及び庫裏・開山堂・山門

員 数 ほんどう かのんどう ほうじょう くり かいざんどう さんもん
本堂1棟・観音堂1棟・方丈及び庫裏1棟・開山堂1棟・山門1棟
つけたり ずし
附 厨子1基（観音堂附）
おおいや はいでん とりい
覆屋1棟、拝殿1棟、鳥居1基（鎮守堂附）
そうもん
総門1棟
ほうぞう
宝蔵1棟

所 在 地 たきだに
坂井市三国町滝谷

所 有 者 たきだんじ
宗教法人瀧谷寺

指 定 基 準 歴史的価値の高いもの、流派的又は地方的特色において顕著なもの

特徴と評価

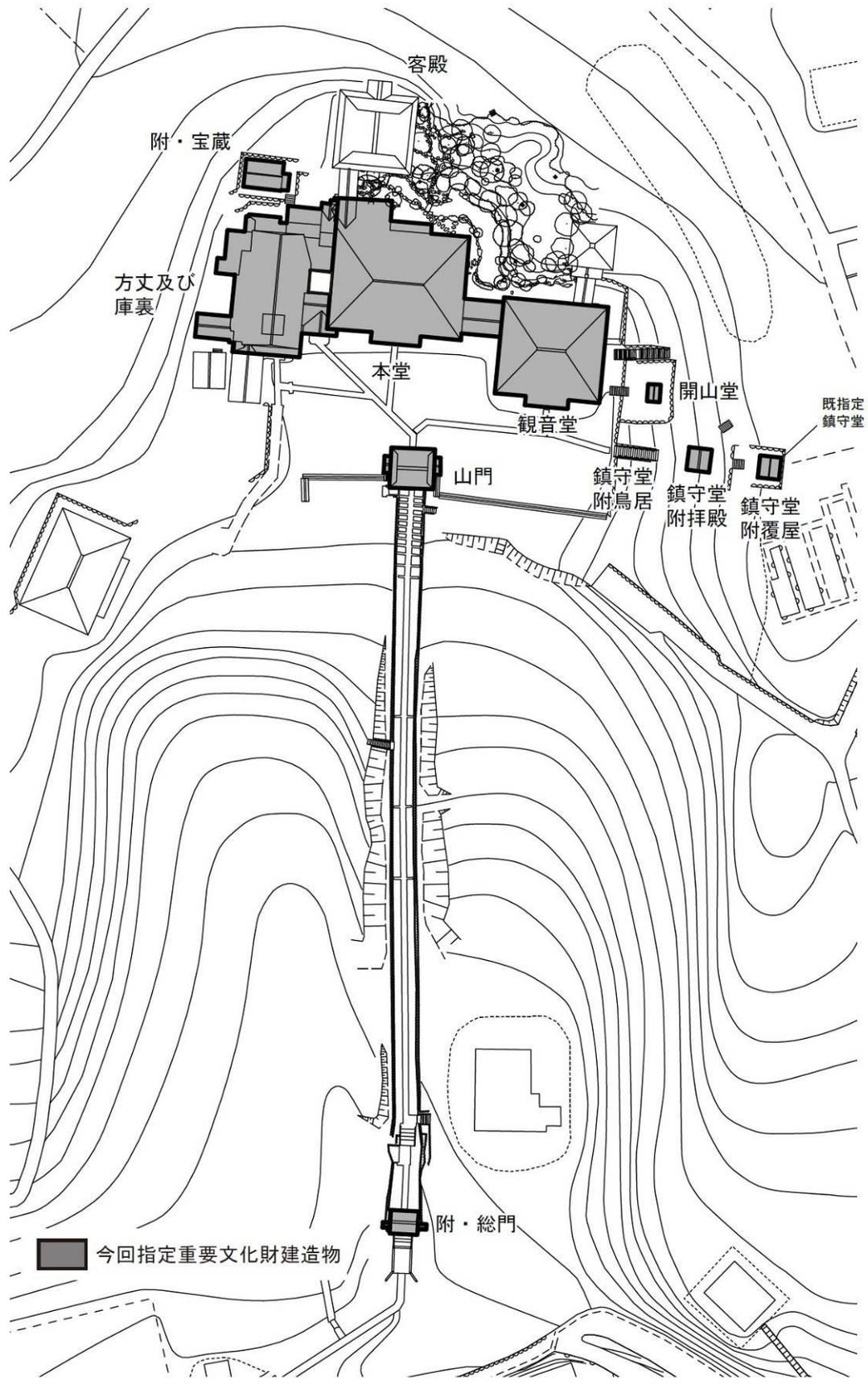
瀧谷寺は九頭竜川河口の三国湊に寺地を占める真言宗寺院で、近世には福井藩の庇護を受けた。境内の中央に、江戸中期に建てられた本堂と観音堂が並び、本堂の正面に山門を構え、観音堂の東側に、元亀3年（1572）建立の開山堂と、室町後期の建立で重要文化財に指定されている鎮守堂が配されている。

瀧谷寺の伽藍は、中世から近世に整えられた堂舎が良好に保存され、庭園とともに優れた境内を創出している。観音堂は平面や空間構成に近世寺院建築の特徴を示し、本堂と方丈は藩主御成りなどのための上質な座敷を備えている。また細部に施された華やかな意匠は福井藩により造営された近辺の遺構と共通し、地方的特色が認められる。近世の北陸地方における密教系寺院建築の展開を理解する上で価値が高く、既指定の鎮守堂と併せて保存を図る。

これまでの指定	昭和37年6月	「鎮守堂」国指定重要文化財
	昭和49年4月	「開山堂」福井県指定有形文化財
	平成26年3月	「本堂・観音堂・方丈および庫裏・山門（鐘楼門）・新殿（客殿）」福井県指定有形文化財



瀧谷寺位置図



瀧谷寺全体図

たきだんじ
瀧谷寺について

瀧谷寺は真言宗智山派しんごんしゅうちさんぱの名刹で、永和元年（1375）に紀州根来寺学頭えいけんの睿憲上人によって現在の坂井市三国町崎に開創された。永徳元年（1381）、現在地に寺地を構え、以来、明治を迎えるまで、堀江氏・朝倉氏・松平氏など歴代の領主によって寺地を安堵され、厚い庇護を受けた。

総門からかつて塔頭たっちゅうが連なった参道を進むと山門に至り、その奥に本堂や観音堂、方丈及び庫裏をはじめとする数多くの建物が存在する。それらの中で三間社流造さんげんしゃながれづくりの鎮守堂ちんじゅうどう（室町時代後期）は重要文化財（昭和37年指定）に指定され、本堂奥の庭園は昭和4年に国名勝の指定を受けている。また、国宝の磬けい（平安時代）や重要文化財の天之図てんのず（室町時代後期）など数多くの寺宝が伝えられている。

現在の伽藍建物は、江戸中期再興のものが中心をなすが、中世から江戸中期の建物がまとまって良好にのこり、真言宗寺院の様相を今に伝える。江戸中期再興の背景には海運で栄えた三国湊や新保などの檀家による多くの寄進があり、湊町の繁栄と厚い信仰を物語る。



瀧谷寺境内（手前より観音堂・本堂・庫裏）

瀧谷寺の建造物について

【本堂】

構造 桁行 21.0m、梁間 15.4m、寄棟造、向拝一間、棧瓦葺
建築年 貞享5年（1688）〈棟札〉

特徴 本堂は山門正面に建ち、棟札により貞享5年に福井の大工によって建てられたことがわかる。本堂の内部は、横3室、前後2列の6室が並び、中央奥の内陣には薬師如来を祀る。本堂東側には池泉庭園が広がり、庭園に面した一室は福井藩主などのお成りに供した座敷となっている。



本 堂



内 部



御堂座敷

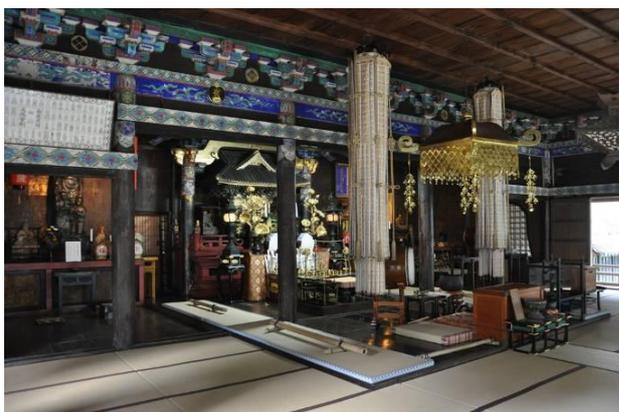
【観音堂（附・厨子）】

構造 桁行 15.8m、梁間 17.7m、寄棟造、向拝一間、棧瓦葺
附・厨子 桁行一間、梁間一間、入母屋造、千鳥破風付、板葺
建築年 寛文3年（1663）〈棟木銘〉

特徴 観音堂は本堂東側に位置する。前面に^{ひろえん}広縁を設け、内部は前方を^{げじん}外陣、後方を^{ないじん}内陣として、内陣中央厨子に如意輪観音を祀る。広縁の上部は、組物を多用し、^{こうりょう}虹梁に植物の文様を彫り込むなど華やかな意匠が特徴である。厨子は観音堂と同時期につくられたものとみられる。



観音堂



内部（中央奥が厨子）



広縁（左：植物文様部分／右：全景）

【方丈及び庫裏】

構造 方丈 桁行 10.5m、梁間 9.5m、切妻造、棧瓦葺
庫裏 桁行 25.0m、梁間 15.4m、切妻造、棧瓦葺

建築年 元禄2年（1689）頃

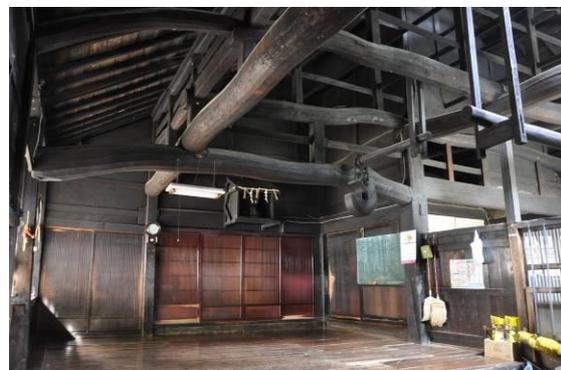
特徴 方丈及び庫裏は本堂西側にあり、本堂とほぼ同時期に建てられた。方丈は本堂に接続し、接客や対面のための部屋が並ぶ。庫裏は吹き抜けて梁組を露わにした台所や、座敷など、建築当初の姿を良く留める。



方丈及び庫裏



方丈（奥の部屋）



庫裏（台所）

【開山堂】

構造 石造、桁行 2.8m、梁間 1.8m、切妻造、石葺

建築年 元龜 3 年（1572）〈線刻〉

特徴 開山堂は、開山睿憲などを祀る。笏谷石製の大型石造建築である。



【山門】

構造 桁行 3.6m、梁間 3.0m、一間一戸楼門、入母屋造、銅板葺

建築年 元禄 11 年（1698）〈棟札〉

特徴 参道を上った正面にある門で、二階に梵鐘を吊る。



【鎮守堂（附・覆屋、拝殿、鳥居）】

構造 鎮守堂 三間社流造、正面千鳥破風付、間口 1.3m、奥行 1.4m
覆屋 桁行 2.9m、梁間 2.8m、切妻造、石葺
拝殿 桁行 2.9m、梁間 2.8m、切妻造、棧瓦葺
鳥居 石造、両部鳥居、間口 2.27m

建築年 鎮守堂 室町時代後期
覆屋、拝殿 元禄頃
鳥居 元禄 12 年（1699）〈線刻〉

特徴 鎮守堂は境内東側の高台にあり、手前より鳥居、拝殿、鎮守堂が直線上に並ぶ。鎮守堂は北陸で希少な中世建築として昭和 37 年に国の重要文化財に指定された。覆屋は笏谷石製の石屋根で、鳥居も笏谷石製である。



鎮守堂（重文既指定）、覆屋



拝殿



鳥居

【附・総門】

構造 桁行 2.8m、梁間 1.9m、一間薬医門、切妻造、棧瓦葺

建築年 江戸後期

特徴 境内入口にある門で、本堂などと同様に笏谷石の棟が載る。



【附・宝蔵】

構造 土蔵造、桁行 5.8m、梁間 3.9m、二階建、切妻造、棧瓦葺

建築年 江戸後期

特徴 方丈及び庫裏背面の高台に立つ二階建の土蔵である。



福井県内の国指定・県指定等文化財

平成29年5月15日現在
(件)

区 分		国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	備 考
		国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	27			166	31	追加指定のため、 件数は変わらず
	絵 画		14				68	
	彫 刻		35				76	
	工芸品	3	7			1	26	
	書跡・典籍・古文書	1	13				20	
	考古資料		5				14	
	歴史資料		3				4	
	計	6	104			167	239	
無 形 文化財	芸 能							
	工芸技術		1				5	
	計		1				5	
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	9	
	無形民俗文化財		5		11		63	
	計		6		11	1	72	
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	23				29	
	名 勝	1	14			2	7	
	天然記念物	4	17			1	33	
	名勝天然記念物		1					
	計	6	55			3	69	
重要伝統的建造物群保存地区				2				
選定保存技術				1				
合 計		12	166	3	11	171	385	
		178						